

主 題：恵みシリーズ15、あなたはサタンの子なのか

聖書箇所：ヨハネの福音書 8章37-41a節

「あなたは主イエス・キリストの本当の弟子ですか？」と、みことばは私たちに語り続けています。
「あなたは主イエス・キリストによって新しく生まれ変わりましたか？あなたは主イエス・キリストを信じることによってその生き方が変わりましたか？」と、そのことをみことばは私たちひとり一人のうちにチャレンジを与え続けていると、そのように思います。イエスがだれなのか？また、イエスが語られた真理をただ知っているだけでは本当の弟子ではないということを学んで来ました。知識をもっている人はたくさんいます。でも、そのすべての人が救われているわけではありません。問題は、主イエスをあなたの神として、あなたの救い主として、あなたの主として心から信じたかどうかです。この「信じる」ということばも漠然としています。

⇒「信じる」とは、主イエスを心から受け入れて、彼に心から従っていく決心のことです。主イエスを「あなたの神・救い主・主」として従っていく決心のことです。

あなたは主イエスについての真理を知るだけではない。主イエスと個人的につながることが大切であると、私たちは見て来ました。そして、ここにおられる皆さんは神との個人的なつながりを持っておられる、そのことを願っています。

私たちは8章のみことばを通して、「信じた」と言っていながら実はそうでない人々へのイエスのメッセージを学んで来ています。そのことを二つの理由によって、二つの根拠を挙げて説明されたところを見ました。こういう理由がありました。

A. 「救い」の必要性を感じていない

なぜ、自分は救われる必要があるのか？なぜ、自分は罪の赦しをいただく必要があるのか？自由になることの必要性、そのことが分かっていないのです。

B. 罪の中を歩み続けている

継続して、習慣的に罪を犯している、救われる前の生活と全く変わっていないということを見ました。これがクリスチャンとそうでない人との違いです。I ヨハネ3：6-9はそのことを私たちに教えてくれました。もちろん、私たちクリスチャンは悲しいことに日々の生活において罪を犯します。でも、救われていない人との違いは、罪を犯したときにすぐにそれを神に告白して赦していただくということです。神が私たちの心を責めてくださるからです。その歩みは間違っていると主が教えてくださるからです。クリスチャンはそうして罪を告白しながら歩み続けていくと、そのことを見て来ました。救われていない人は、罪を犯してもそれを主の前に悔い改めようとしません。それが違いです。

そのような人々に対してイエスは救いの手を差し伸べておられました。「信じた」と言っていながら、実はあなたがたは救われていないということを明らかにされたイエスは、その人々になお救いの手を差し伸べておられます。そのことを前回見ました。そしてその後、再び、「あなたがたは救いに与っていない」ということを話していかれます。今日見ていく37節から、イエスは新たな根拠を挙げて「あなたがたは救われていない」ということを明らかにされるのです。

それを見ていきますが、その前に、恐らく、多くの牧師たちは「救われているかどうか」というメッセージを語りたがらないでしょう。余り厳しいことを語ると教会から人々は離れていってしまう…と、そのような人間的な恐れをもっている牧師は、そのことを語りません。皆が聞いていてもっと楽しいこと、皆が喜ぶことを語ります。しかし、私たちの教会はそのことを語ります。なぜなら、集まっているあなたの永遠が気がかりだからです。人が教会から離れるかどうかを心配することよりも、あなたが確実に天国に行けるかどうか心配だからです。そして、もう一つ、イエスを見るならイエスはそうに為さっていたからです。今日、私たちが見ていくこの8章には、イエスは繰り返して人々に「心を吟味するように、今日死んでもあなたは間違いなく天国にいけるのか？そのことをあなた自身がしっかりと吟味しなければいけない。」と言っておられます。イエスがそのように為さっていたゆえに、私たちもひとり一人、そのことをしっかりと吟味して、今日、肉体的な死を迎えることがあっても、間違いなくその瞬間に神のもとに上がっている、そのことが最も大切だから、私たちは主が語っておられるこの厳しいメッセージを学び続けるのです。

さて、彼らが救われていない理由の三つ目として主イエスが語られたことは、

C. 主イエスへの敵対 37-47節

「主イエスへの敵対心」、それが理由です。「あなたがたは救いに与っていない。なぜなら、あなた

がたはわたしに敵対し続けている。」と。そのことが37節から47節、もっと言うなら、この章の終わりまで記されています。これら三つの理由を見ると、初めのAとBは「罪に対する彼らの態度」を述べています。「救いの必要性を感じていない」、「彼らは罪を犯し続けている」と。そして、三つ目は罪ではなく「神に対する彼らの態度」を責めています。

37節「わたしは、あなたがたがアブラハムの子孫であることを知っています。しかしあなたがたはわたしを殺そうとしています。…」、イエスを信じることなく、イエスに敵対し続けているとイエスは言うておられます。ここにはイエスは彼らが主張していた「アブラハムの子孫」ということばを使っています。確かに、このユダヤ人たちは血筋においてはアブラハムの子孫でした。でも、イエスが言われることは、「確かに、あなたがたは血筋においてはアブラハムの子孫であるけれど、信仰においてはアブラハムの子ではない。」ということです。そのことを明らかにさせるのです。そのために、イエスはここで「アブラハムの子孫」ということばを引き合いに出して大切なレッスンを彼らに教えるのです。

イエスはまず、アブラハムと彼らの神に対する態度の違いによってそのことを教えようとしています。アブラハムは神を信じて従った人物です。彼は確かに「信仰の父」です。彼は神に従ったのです。ところが、このアブラハムの子孫だと言っているユダヤ人たちはイエスを殺そうとしているのです。明らかに違うでしょう？と言います。「殺そうとしています」は現在形で「機会を探り続けている」「主を信じないで敵対し続ける」という意味です。もし、あなたがたがアブラハムの子孫なら、なぜ、あなたがたはアブラハムと相反することをするのか？とそのように指摘されるのです。37節を見ると、なぜ、ユダヤ人たちが主イエス・キリストに敵対し続けているのか？その理由が二つ挙げられていることに気がきます。

1. 彼らが主イエスに敵対する理由

1) 彼らがみことばを拒み続けているから 37b節

神のおことばを拒み続けている、それが一つ目の理由です。37節の後半に「わたしのことばが、あなたがたのうちに入っていないからです。」とあります。この「入っていない」という動詞は「心にみことばへの場所がない」ということです。そのような意味をもったことばが使われています。別の言い方をすると、このユダヤ人たちはみことばを歓迎して受け入れないでそれを拒んでいるのです。彼らの心はイエスの語られることばを聞いて感謝するどころか、却って、イエス・キリストへの憎悪感に満たされるのです。その様子をイエスは語っておられるのです。彼らの中には、自ら進んでみことばを学び、真理を知り、その教えに従っていこうとする、そのような思いが全くないということです。

このような人たちはイエスの時代だけに存在していません。どの時代にも存在します。イエスはそのような人たちへの警告を告げておられます。マタイ13:13-15でイエスはイザヤのことばを引用して、このようなユダヤ人たちの不信仰に対する警告を告げています。「**13 わたしが彼らにたとえて話すのは、彼らは見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないからです。14** こうしてイザヤの告げた預言が彼らの上に実現したのです。『あなたがたは確かに聞きはするが、決して悟らない。確かに見てはいるが、決してわからない。15 この民の心は鈍くなり、その耳は遠く、目はつぶっているからである。それは、彼らがその目で見、その耳で聞き、その心で悟って立ち返り、わたしにいやされることのないためである。』」、引用されているイザヤ書6:9-10を見ましょう。「**9** すると仰せられた。「行って、この民に言え。『聞き続けよ。だが悟るな。見続けよ。だが知るな。』10 この民の心を肥え鈍らせ、その耳を遠くし、その目を堅く閉ざせ。自分の目で見ず、自分の耳で聞かず、自分の心で悟らず、立ち返っていやされることのないように。」、

イザヤはどのような背景でこのようなことを語ったのでしょうか。その背景を簡単に説明しますから、皆さんは頭に入れておいてください。イザヤという預言者はイスラエルの南王国ユダで活躍した預言者です。四人の王のもとで活躍します。ユダの人々は霊的に墮落をしていきます。イザヤは神からのさばきがあるという警告を発します。しかしながら、人々はその罪を悔い改めて主に立ち返ることをしないで、罪を重ね神の赦しを拒んでいました。ウジヤ王が死んだときに、「だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう」という神の声に対して、イザヤは「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」（イザヤ6:8）と答えました。そのときに主がイザヤに語られたことが今ここに記されていることばです。「行って語れ！でも、彼らはそれを聞かない」と。

イエスはマタイ13章で、その当時のユダの人々と同じように、多くのユダヤ人たちは主イエスが語られた明確な真理のことばを拒んでいると言われます。彼らは心を開いて神のメッセージを謙虚に受け入れるのではなく、初めから、受け入れようとしていなかったのです。メッセージを受け入れるどころか、そのメッセージを斥けたのです。そして、イエスはここで彼らの不信仰に対する報いを語っておられます。イザヤもその通り、イエスがイザヤ書を引用して語られたマタイ13:13-15も、言われていることは同じです。このように心を頑なにしている人々に対する神のさばきが言われているのです。

◎彼らへの神のさばき

マタイ 13 : 13 から「わたしが彼らにたとえて話すのは、彼らは見てはいるが見ず、…」と続いていきますが、イエスはもともととはたとえて話しておられません。イエスは明確なことばで話しておられます。ところが、ある時からある人々にはたとえて話すようになったのです。そのことがここで言われているのです。イエスは彼らが主のことばに心を開かずそれを受け入れようとしなからたとえて話すと言われたのです。たとえて話を聞いたとき、内容がよく分かりません。これが「さばき」です。

・「真理を理解することがますます困難になっていく」ということ

神のすばらしい明確な真理を彼らは聞いても受け入れないから、ますますその真理を理解し難くなるのです。その責任は人々にあります。彼らが受け入れないからそのさばきを自らに招くというのです。

・「明確なメッセージを聞く機会がなくなっていく」ということ

人々は聞いているメッセージがなかなか理解できないだけでなく、そのメッセージを聞く機会さえも失っていくと言います。

ですから、もし、この中でイエスを信じていない人がおられるなら、あなたは主のみことばを聞きながらそのメッセージを拒み続けている、そのあなたはますます真理を理解することが難しくなっています。そのことはこの後見ていきますが、そのような神からのさばきがあなたの上に下るのです。それはあなたが神の真理を斥けたからだと言います。

ですから、みことばが語られたとき、私たちは信仰者であろうとなかろうと、一人ひとりが覚えなければならないことは、正しい態度をもってみことばを聞くということです。

◎みことばは…

(1) あなたに知恵を与え、救いをもたらす

パウロはそうように語っています。Ⅱテモテ 3 : 15 「また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。」、つまり、聖書はこのような働きを聞いている人たち、あなたのうちに為すのです。そして、もうすでに、この働きは信仰者であるあなたのうちに為されたのです。あなたのうちに働いて、あなたに罪を示します。あなたのうちに働いて、あなたには罪の赦しが必要だと悟らせるのです。そのような働きを神のおことばは為すのです。パウロはそのことをこの箇所で言ったのです。そのようにして神はあなたを救いへと導いてくださったのです。

(2) あなたの信仰の成長を助ける

また同時に、聖書のことばはあなたの信仰の成長を助けるものです。同じ、Ⅱテモテ 3 : 16, 17 には「:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。:17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」、クリスチャンであるあなたはその信仰においてますます成長し、神にとって役に立つ者となっていくために、この聖書が必要だとパウロは言っているのです。

皆さんに質問しますが、あなたは主が語ってくださるみことばを聞くことを楽しみにこの礼拝に来られましたか？礼拝の中で最も大切な時間はみことばを聞くときです。どのような心をもってあなたは主の前に出て来ていますか？主のみことばが語られるときにあなたはどのような態度をもってそれを受け入れようとしていますか？みことばを聞いていても心を開くことなく閉ざし続ける人、旧約聖書の中にはそのような人のことをこのような表現で示されています。「うなじのこわい人」と。エレミヤ書 7 : 26 「彼らはわたしに聞かず、耳を傾けず、うなじのこわい者となって、先祖たちよりも悪くなった。」、このことばは旧約聖書に 15 回出て来ます。「うなじ」は首の後ろです。そして、「こわい」とは「堅くしている、こわばらせている、硬直させている」です。ですから、「頑なな人、強情な人」を指す表現です。神のことばが語られているのに、それに対して心を開こうとしない、まさに、ここに出てくる人たちの姿です。みことばを聞いても心を開くことなく心を開ざし続ける、そのような生き方にどんな祝福があるでしょう？今見て来たように、みことばが私たちを救いへと導いてくれるし、みことばは私たちの信仰を成長させてくださる、でも、そのみことばを真剣に聞いていない人にどのような祝福があるでしょう？

このユダヤ人たちはうなじのこわい者たちでした。神のことばに対して心を開かない者たちでした。このような人たちに対する警告をイエスご自身も与えておられます。

【主イエスの警告】

マタイ 13 : 19 「御国のことばを聞いても悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪って行きます。道ばたに蒔かれるとは、このような人のことです。」、四つの種蒔きのことがここで話されています。その中の「道ばたに蒔かれた人」のことです。イエスはその説明をされました。この人は「御国のことばを聞いても悟らない」のです。なぜか？自分の頑なさです。その人の心が堅いからです。堅いところに種を蒔いても目を出しません。同じように、心が頑なでは神のことばがそこに入って来ません。そのよう

な人のことです。神について、また、自分の永遠についても全く無関心です。神のメッセージを聞いてもそれはただの人間の話としてしか捉えていません。ときには、自分の知的要求を満たさない愚かな話として蔑んでいるかもしれません。

この19節に「悪い者が来て」とありますが、これは「サタン」のことです。悪魔のことです。何が起こるのか？イエスが言われることはこうです。もし、その人が神のことばを聞いてもそれを受け入れないなら、サタンはあらゆる手段を使ってその人が間違っても救いに与らないように妨げを為します。いろいろな嘘を吹き込みます。「自分はそれほど悪い人間ではない」とか、「今を楽しく生きていればそれでいいではないか。死んで終わりなのだから。」、「何を信じていようと結局は同じところに行くのだからいいではないか」と、サタンは皆さんの心に働いて皆さんができるだけこの神が備えられた救いから遠ざかるようにと、あらゆるわざを為します。そして、サタンはあなたを彼に定まっている地獄へ道連れにしようとします。だから、私たちはみことばを愛するのです。みことばは私たちに力を与えるものです。知恵を与えるものです。いのちをくれるものです。私たちの信仰を強めてくれるものです。

どうぞ、信仰者の皆さん、考えてみてください。あなたはどんな思いをもってみことばを毎日開いておられますか？どんな思いをもってみことばを読んでいきますか？もし、みことばがあなたの生活の中で最も重要な位置を占めていなければ、それはあなたの生活に必ず反映されていきます。神のおことばは私たちにとって最も大切なものです。これがあなたの信仰を成長させるものです。詩篇のみことばを見てください。詩篇19：7「【主】のみおしえは完全で、たましいを生き返らせ、【主】のあかしは確かで、わきまのない者を賢くする。」、詩篇119：97「どんなにか私は、あなたのみおしえを愛していることでしょう。これが一日中、私の思いとなっています。」

このユダヤ人たちが責められたのは、彼らは神のみことばに心を開いていなかった、彼らの心の中にはみことばの場所がなかったことです。だから、あなたがたは救われていないのだと言います。信仰者の皆さん、あなたも気を付けなければいけません。みことばを疎かにしていないかどうかです。神のみことばが語られるときに私たちは、神が語っておられるという緊張感をもって聞いているかどうかです。

それが一つ目の理由だとイエスは37節で言われました。

2) サタンが父だから 38-39a節

彼らがイエスに敵対し続ける二つ目の理由は38節に書かれています。「サタンが彼らの父だから」と言います。38節「わたしは父のもとで見たことを話しています。ところが、あなたがたは、あなたがたの父から示されたことを行なうのです。」と。イエスは「ご自分の父」と「彼らの父」との違いをここで明らかにしておられます。そのことを通して、このユダヤ人たちが自分たちが父として慕っている存在はイエスの父とは違うということに気付かせようとするのです。つまり、彼らは救いに与っていないということに気付かせようとするのです。明らかに、ここには二人の異なった父がいます。

(1) 主イエスの父

真の神、三位一体の第一位格です。イエスは「私は父のもとで見たことを話しています」と言われます。つまり、イエスは「わたしは父とともにいた、父の臨在とともにいた」と言われたのです。そのことはここで初めて言われたものではありません。ごいっしょに見ましょう。

ヨハネ1：1「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」、この「ことば」はイエスご自身です。

ヨハネ1：14「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。」、神であることばが人となってこの世に来てくださった。「私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。」この方は父のみもとにおられたのです。「この方は恵みとまことに満ちておられた。」

ヨハネ6：46「だれも父を見た者はありません。ただ神から出た者、すなわち、この者だけが、父を見たのです。」、ここでもイエスは父なる神とともにおられたということを明らかにしておられます。

ヨハネ7：29「わたしはその方を知っています。なぜなら、わたしはその方から出たのであり、その方がわたしを遣わしたからです。」と。

ですから、このようにイエスは「わたしは父とともにいた」とずっと言われていたのです。だから、「わたしが父について語るときにはそれは真理である、わたしが見ていたことをわたしは話しているのだ」と言われるのです。天において父なる神とともにおられた主イエスだけが、神についての真理を話すことができるのです。38節の「話しています」は現在形です。イエスはそのことをずっと話し続けておられたのです。

(2) 彼ら、自称弟子たち、の父

38節に「ところが、あなたがたは、あなたがたの父から示されたことを行なうのです。」と続きます。あなたがたがやっていることはまさにあなたがたの父から示されたことだと。もちろん、この時点で、話を聞いていたユダヤ人たちが「あなたがたの父はサタンだ」とイエスが言われていることを理解していま

せん。かろうじて、彼らが理解したことはイエスの父と自分たちの父とは違うということです。しかし、私たちは今、この全体を見ることができます。イエスがここで言わんとしたことは明らかです。「あなたがたの父はサタンだ」ということです。そして、あなたがたは父であるサタンの行ない、彼から聞いたことを行なっていると告げました。サタンとは偽物の神です。神でないものが神だと言っています。嘘つき、偽り者です。だから、彼が為すことは常に嘘ばかり、彼が教えることも嘘だらけです。それがサタンです。また、サタンは神に敵対し続けているものです。神であるイエスを殺そうとするのは神が為さるわざではありません。明らかに、神の敵のしわざです。

主イエスは「あなたがたがわたしに敵対し続けるのはこれが理由だ」とこのように二つの理由を挙げられました。あなたがたは神のことばを拒んでいるし、あなたがたはサタンを父としてそのサタンに従っていると。

さて、そのことを聞いた彼らは反論しています。39 a 節に「彼らは答えて言った。「私たちの父はアブラハムです。」とあります。もちろん、彼らは血筋だけのことを言っています。「私たちはアブラハムの子孫だから神の前に正しいのだ」と言います。彼らは肉体的なことだけでなく霊的な意味も含めて言うのです。彼らの拠り所は「自分たちはアブラハムの子孫であって、アブラハムへの祝福は私たちのものだ。私たちも神に喜ばれている。アブラハムの子孫だから。」ということです。イエスはそれが間違っていることをこの後、教えていけます。

2. 彼らがアブラハムの子でない理由 39 b - 41 a 節

39 b 節「イエスは彼らに言われた。「あなたがたがアブラハムの子もなら、アブラハムのわざを行いなさい。」、つまり、イエスは「あなたがたは行なっていないではないか？」と言われたのです。そのことがあなたがたがアブラハムの子でないことを明らかにすると言われるのです。もし、あなたがたがアブラハムの子なら、アブラハムと同じようにすばらしいわざを為すと。

1) 「アブラハムのわざ」とは？

ヨハネ 8 : 56 を見てください。「あなたがたの父アブラハムは、わたしの日を見ることを思っ大いに喜びました。彼はそれを見て、喜んだのです。」とあります。この「わたし」とはイエスのことです。

(1) 救い主が来られることを信じた

アブラハムは救い主が来られることを信じました。そのことを楽しみに待ち望んでいたのです。ちょうど、神が自分に与えてくださった約束、イサクの誕生を待つように、彼は救世主が来られることを待っていたのです。ヘブル書 11 : 17 - 19 に「:17 信仰によって、アブラハムは、試みられたときイサクをささげました。彼は約束を与えられていましたが、自分のただひとりの子をささげたのです。」、「彼は約束を与えられていました」と書かれています。どんな約束を与えられていたのか？息子が与えられることであり、その息子は自分の妻であるサラを通して与えられる息子であり、その息子イサクから多くの子孫が生まれるという約束です。同時に、その子孫から救い主から生まれるということです。その約束をアブラハムは神からいただいたのです。

(a) アブラハムは主なる神から約束を得た

もちろん、どれだけのことを神はアブラハムに明らかにされたのかは聖書は教えていません。でも、そのことは創世記 12 章から繰り返して記されています。

説明:

創世記 12 : 1 - 4 「:1 【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」:4 アブラムは【主】がお告げになったとおりに出かけた。ロトも彼といっしょに出かけた。アブラムがハランを出たときは、七十五歳であった。」

創世記 13 : 14 - 16 「:14 ロトがアブラムと別れて後、【主】はアブラムに仰せられた。「さあ、目を上げて、あなたがいる所から北と南、東と西を見渡しなさい。:15 わたしは、あなたが見渡ししているこの地全部を、永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう。:16 わたしは、あなたの子孫を地のちりのようにならせる。もし人が地のちりを数えることができれば、あなたの子孫をも数えることができよう。」

創世記 15 : 4 - 6 「:4 すると、【主】のことばが彼に臨み、こう仰せられた。「その者があなたの跡を継いではない。ただ、あなた自身から生まれ出て来る者が、あなたの跡を継がなければならない。」:5 そして、彼を外に連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」さらに仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」:6 彼は【主】を信じた。主はそれを彼の義と認められた。」

創世記 17 : 19 「すると神は仰せられた。「いや、あなたの妻サラが、あなたに男の子を産むのだ。あなたはその子をイサクと名づけなさい。わたしは彼とわたしの契約を立て、それを彼の後の子孫のために永遠の契約とする。」

創世記 22 : 18 「あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。」

ヘブル 11 : 13 「これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。」

アブラハムの子孫からすべての人々の祝福をもたらす人が生まれるということです。救世主が生まれて来るという預言です。ですから、ヘブル 11 : 17 で「彼は約束を与えられていましたが、」というのとはそういうことです。

(b) アブラハムはその約束が必ず成就されることを信じた

そして、11 : 18 - 19 「18 神はアブラハムに対して、「イサクから出る者があなたの子孫と呼ばれる」と言われたのですが、19 彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできる、と考えました。それで彼は、死者の中からイサクを取り戻したのです。これは型です。」、アブラハムは、神の約束は必ず成就すると信じていました。ですから、こうして見たときに、「アブラハムのわざ」として最初に知るの「アブラハムは神の約束を信じました」ということです。彼は自分の家系から全世界の祝福となる救い主が来られるという、その約束を信じたのです。それが「アブラハムのわざ」です。

もちろん、ヘブル 11 : 13 で教えるように「約束のものを手に入れることはありませんでしたが、」と、約束をいただいているアブラハムは実際に自分の目で救世主を見ることはなかったのです。しかし、彼はその約束を信じたのです。これがアブラハムのわざの一つ目です。

(2) 神の命令を守った

彼は神の命令を忠実に守った人です。主が出て行きなさいと言われたとき、どこに行くのかは分からずに出て行きます。あなたの愛するイサクをささげなさいと言われたとき、彼は喜んでそれに従って行きました。これがアブラハムのわざです。神の約束を信じただけでなく、神の命令を守るのです。

(3) 常に神に信頼した

なぜなら、わたしが示すところに行きなさいと言われたなら、当然、「どこへ行くのですか？」と考え問います。アブラハムはそれを聞かないで出て行きます。主を信頼し切っていました。イサクを殺せと言われたときに、殺しても神は必ず約束を成就するためにイサクを死者からよみがえらせてくれるという信仰を持っていました。神が言われたことは必ずそうになると、それがアブラハムのわざです。

(4) 神の使いを歓迎した

創世記 18 : 1 - 8 「【主】はマムレの樫の木の下で、アブラハムに現れた。彼は日の暑いころ、天幕の入口にすわっていた。2 彼が目を見て見ると、三人の人が彼に向かって立っていた。彼は、見るなり、彼らを迎えるために天幕の入口から走って行き、地にひれ伏して礼をした。3 そして言った。「ご主人。お気に召すなら、どうか、あなたのしもべのところを素通りなさらないでください。4 少しばかりの水を持って来させますから、あなたがたの足を洗い、この木の下でお休みください。5 私は少し食べ物を持ってまいります。それで元気を取り戻してください。それから、旅を続けられるように。せっかく、あなたがたのしもべのところをお通りになるのですから。」彼らは答えた。「あなたの言ったとおりにしてください。」6 そこで、アブラハムは天幕のサラのところに急いで戻って、言った。「早く、三セアの上等の小麦粉をこねて、パン菓子を作っておくれ。」7 そしてアブラハムは牛のところに走って行き、柔らかくて、おいしい子牛を取り、若い者に渡した。若い者は手早くそれを料理した。8 それからアブラハムは、凝乳と牛乳と、それに、料理した子牛を持って来て、彼らの前に供えた。彼は、木の下で彼らに給仕をしていた。こうして彼らは食べた。」

このときに、アブラハムは神からの約束をいただきます。サラがひとりの男の子を産むという約束です。アブラハムは神の使いを見たときに、彼らを歓迎したのです。

イエスは「アブラハムのわざを行ないなさい。」と言いました。このようなわざです。そして、ユダヤ人たちはどうだったでしょう？彼らはこのようなことを行なっていませんでした。却って、それとは全く相反することを行なっていました。40 - 41 a 節を見てください。「40 ところが今あなたがたは、神から聞いた真理をあなたがたに話しているこのわたしを、殺そうとしています。アブラハムはそのようなことはしなかったのです。41 あなたがたは、あなたがたの父のわざを行っています。」、イエスがここで明らかにされたことは、アブラハムは神の約束を信じた、救い主が来られることを信じた、でも、あなたがたは、

(1) 来られた救い主を拒んでいる

信じるどころか拒み続けていると言います。

(2) 神の命令に逆らい続けている

アブラハムは神の命令を聞いてそれに従ったけれど、あなたがたは逆らい続けていると。神から聞い

た真理を話し続けているこのわたしを殺そうとしています。

(3) 神に信頼を置くことをしなかった

アブラハムはどんなときにも神に信頼を置いて歩みました。でも、このユダヤ人たちは神に信頼を置くことをしませんでした。彼らが信頼を置いたのは、自分たちの宗教、自分たちの民族です。「われわれはアブラハムの子孫だ」と言って…。

(4) 神の使いを殺そうとした

アブラハムは主の使いを歓迎しました。ユダヤ人たちは主の使い、主イエス・キリストを殺そうとしています。

ですから、彼らの行ないは、自分たちの父がアブラハムでないことを明らかにしたのです。そのことをイエスは彼らの前に明らかにするのです。あなたがたの父はアブラハムではない、あなたがたの父はサタンだ、41節「あなたがたは、あなたがたの父のわざを行っています。」と。

さて、皆さん、私たちひとり一人が考えなければいけないことは「私の父はいったいだれか？」ということです。神なのかサタンなのか？あなたは神と個人的な関係をもっていますか？あなたは生まれ変わりましたか？あなたの生き方は変えられましたか？あなたは罪を憎んでいますか？私たちはそのことを考えなければいけません。今日死んであなたはどこに行きますか？イエスはこうして彼らの誤りを明らかにして、常に、イエスだけが救い主であることを明らかにされました。

もし、自分の救いがはっきりしないなら、イエスのもとに来ることです。イエス・キリストと個人的な関係を築くことです。心からこの方を信じることです。この方をあなたの神として主人として従っていく決心をすることです。どうぞ、この救いをまだ受けていない人はいただけてください。イエスはその機会をあなたに与えてくださっています。どうぞ、心を頑なにしないように、このユダヤ人たちのように真理に背き続けることをしないように、この日があなたにとって救いの日となることを願います。

救われている皆さん、今一度、私たちの神に対する心の態度を吟味しましょう。どんな思いをもって主に従っているのか？救われたときにもっていた熱い思いを今ももって歩んでいるか？主のためなら喜んで何でもしようと思ったあの思いが、今もふつふつと自分の心の中で燃えたぎっているか？それともそれはもう冷え切ってしまったのか？悔い改めの機会です。どうぞ、主に喜ばれる歩みをもって主のすばらしさを証していくことです。

《考えましょう》

1. 「わたしのことばが、あなたがたのうちにはいっていないからです。」(37節)の意味を説明してください。
2. みことばに対して「真剣に聞いて、心から受け入れる」という謙虚な態度が大切なのはどうしてですか？
3. 「アブラハムのわざ」を挙げてください。
4. 主なる神が、アブラハムを喜ばれた理由を挙げてください。